シェイク！・お正月編

雨宮

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
シェイク！・お正月編

【Ｎコード】
Ｎ８８９９Ｐ

【作者名】
雨宮

【あらすじ】
強気な性格少女・千草とそれに振り回されることになった優の夏物語の番外編。

（前書き）

『シェイク！』の番外編、お正月版です。

「あー寒い」
思わず口にしていた。
白い息がふわっと広がる。
もう少しで年が変わる。
腕時計を見て確認すると後一時間程である。
　優は部屋からベランダへ出ていた。
寒かったが、そうせずにはいられなかった。
　学校は冬休みに入った。
すなわち、千草に会うこともなくなった。
あの始業式以来、千草と優は友だち以上恋人未満という微妙な関係が続いていた。
特別進学コースの千草は毎日夜まで授業があり、朝も普通のコースより早く始まる。
会えるのは休み時間ぐらいだが、その間も小テストの予習などがあるため
ほとんど落ち着いて話す時間が無いというのが現状であった。
　唯一の繋がる手段はメール。
メールのやりとりぐらいしかしていない。
これは付き合っていると言っていい範囲なのか迷う所である。
向こうも好きだと言ってくれたので両思いなのには違いないが。
　ため息。
　帰り道に手を繋いで彼女と楽しそうにする友人を思い出す。
にこにこと笑って幸せそうだった。
いいな、と自然と思った。
　自分も千草とあんな風になれたらな、と。
すぐにあり得ないとツッコミを自分で入れる。

あのプライドの高い千草が誰かの前で手を繋ぐなどありえない。
　ため息。
暗い路地の中、自転車や歩行者が行きかうのを見守っていると
見覚えのある姿が飛び込んでくる。
慌てながら階段を降りて玄関に出る。
とても寒い。
「千草！」
ガチャンと家の前に自転車を止めた人物に声をかける。
黒いダウンジャケットに赤いマフラー、ジーンズにブーツ。
地味なデザインなものばかりだがしっくりときている。
「寒かっただろ？」
めがねをかけ髪を二つに束ねている。
自転車のカゴには大きなかばん。本や参考書が山のように入っている。
「あたりまえじゃない、ばか？」
いつものように見下した視線で言い放つ千草。
それでもこうして会えるのは嬉しいので、優は笑ってしまう。
千草のひねくれた性格はよく知っている。
　二人は並んで少し歩く。
千草は塾の帰りである。
今日ぐらいは会いたいなと思って優はメールをした。
返事は返ってこなかったが、帰り道に通ることがたまにあるのを知っていたので
ベランダに出て待っていたのだ。
「ほら、これ」
そう言いながら水筒を差し出す。中には温かい紅茶が入っている。
自転車を止めて千種はコップを受け取る。
ふーふーと湯気を泳がせている仕草が可愛い。
そんなことを思っていた優に気がついたのか、むっと顔をしかめる。
「優にしては用意がいい」

「母さんが持って行けって」
「うーわっ」
「なんだよ」
「なんでもない」
そう言い、ぷいっとよそを向く。
「そうそう、明日なんだけどさー」
「あー、あけましておめでとう。フライングで言っておく」
先制パンチを正面からくらう。
「そっけねぇなー」
「メールじゃないだけマシでしょうが」
「そうだけどな、もうちょっと可愛い言い方がっ」
言っている途中に横蹴りが入った。

優は改めて千草に向かって話しかける。
二人は来た道を帰りながらまた歩いていた。
「母さんが、着物あるから着ないかって」
「真緒ちゃんは？」
妹の真緒のことを千草は出す。
二人はいつの間にか仲の良い友人になっていた。
真緒は千草のことを姉のようにしたっている。
「あいつは初詣友だちと行くから着ない」
「ふーん」
「良い着物らしくてもったいないから、千草が着てくれないか聞けって言われて」
「着物ねぇ」
考えるように答える千草。
「着物とか千草似合いそうだと思うけど？」
「まあ、気が向いたらね」
そう言うと自転車をこぎ始める。
「おう、また明日。おやすみ」

「おやすみー」
その後ろ姿が見えなくなるまで、優は手を振り続けた。
千草は一度も振り返る事無く闇夜に消えて行った。

「ちーちゃんいってきまーす！」
優は真緒の元気な声で目が覚めた。
千草は夏から勝手に上がりこみ、母や妹と喋るようになっていた。
気がついたらお菓子を食べながら母と世間話をしていた、あの夏。
時計を見ると寝すぎていたことに気がつき、慌てて部屋からリビングに下りた。
そして驚愕の図が目に飛び込んできた。
紅色に桜の描かれた華やかな着物をさらりと着こなしている千草がいた。
眠気がいっきに吹き飛んでいく。
黒髪を上で纏め結い、頬に少しと唇に赤を差している。
「着物似合ってるじゃん」
優は自分がジャージ姿で酷い寝癖だということを忘れて、思わず見とれる。
「あんたが言ったんでしょ！」
「え、なんだっけ」
「言わせんなばかっ！」
着物の間から横蹴りが入った。

（後書き）

お読み下さってどうもありがとうございました！

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n8899p/

シェイク！・お正月編

2011年1月9日03時21分発行